



I C T学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立弘前第二養護	学校			
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
	単元(題材)名	朝の会をしよう					
	単元(題材)の目標	スケジュールアプリで朝の活動の内容を理解し、順番に取り組むことができる。コミュニケーションアプリを使って朝の会の進行ができる。					
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	4年	年	1	人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	4年生2名、5年生1名で全員が医療的ケアを要する学級である。内2名が自立活動を主とする教育課程、1名(対象児童)が知的代替の教育課程で学習している。1時間目の日常生活の指導において、前半の朝の活動(身支度、係、排泄等)は各自で、後半の朝の会は3名合同で行っている。意味のある言葉を話したり、相手の話を聞いて返したりするのは対象児童のみである。					
I C T活用について	使用した支援機器・教材の名称	i P a d					
	使用したアプリケーションの名称	やることカード DropTalk			 		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援					
I C T活用のねらい	本児は普段の大人とのやりとりは良好であるが、学習場面等改まった場での発言や発表に苦手意識があり、ほとんど声を出して話せない状況であった。また、毎日の決まった活動でも指示がないと自分から行動に移せない様子が見られた。 そこで、以前からスマホやカメラ等の機器操作に興味をもっていたことから、有効なアプリを活用することで、自分で確認しながら意欲的に活動に取り組むことができるのではないかと考えた。						
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・①検温②血中酸素濃度計測③連絡帳を鞆から出す④係活動二つ⑤排泄の一連の朝の活動について「やることカード」を使用し、自分で確認しながら進められるようにした。 ・朝の会の台詞を自分の声で録音し、「ドロップトーク」を使用しながら進行できるようにした。 ・どちらも次の活動に進めないときに指さし等の確認を要する。 						